

## 平成 29 年度 第 3 回学校協議会議事録

日時：平成 30 年 2 月 9 日(金)

○委員紹介

○協議会委員長あいさつ

○校長あいさつ

○協議

①平成 29 年度「学校教育自己診断」分析結果について

(事務局) 昨年からの変化、肯定率の高い項目・低い項目、教員と保護者、生徒間で結果に大きなギャップがある項目についての確認と、その結果から見る次年度の重点項目についてなど説明を含めて報告。

(委員) 概ね肯定率が高い評価を得ていると考えてよいのではないか。

(委員) 評価はいつされるのか？項目はどのくらいあるのか？項目が多すぎて正しく評価ができていないのか疑問に感じた。項目をもっと少なくした方が的確な分析ができるのではないか？

(事務局) 11 月にアンケートを取り、結果を出した。項目は、生徒 20 問、保護者 30 問。フォーマットはあるが、各学校である程度変えられる。

(委員) 現時点で絞り込んだ内容にはなっているから、保護者の学校への視点を中心に議題にするとよいのではないか？保護者からの提出率がおもわしくないように感じるが理由は？

(事務局) 呼びかけはしているが思うように回収できていない。

(委員) 校区が広域のため難しいかもしれない。

(委員) 情報提供についての肯定率が低いようだが P T A としては？

(委員) 先生方と直接話して理解できることも多いため、P T A として参加しないとわかりにくいかもしれない。「活動に参加しやすい」項目が高いのは、うれしく思う。アンケートの意味を理解していない保護者が多いのではないかと感じる。アンケートの目的などの添え状があった方がよいのではないか？

(委員) 保護者へのフィードバックは？

(事務局) ホームページでの公開。

(委員) 詳細な進路情報など必要な情報についてはより丁寧に行った方がよいのではないか。

(事務局) 学校での進路説明会を各学年に応じた内容で年に複数回行っており、欠席者には資料が渡るようにはしている。また、進路情報についての冊子や便りも出している。

(委員) 年間を通した進路のスケジュールをペーパーの形で保護者に提示していった方がよい。将来の福祉サービスや労働関係のサポートなど 3 年間で理解してもらう必要もあるので、丁寧な情報提供が必要である。

(委員) 生徒について、教員との関係・授業についての肯定率が低いことが気になる。一般校で言う教育相談室のようなものを設けるような取り組みがあるとよいのでは？

(事務局) 今年度より昼休みに「ランチタイム相談室」を実施。気軽に入り話せる場を初めて作った。まだまだPR不足の点はあるが、今後も広げていきたい。

(委員) 明確に看板を立てるなど告知が必要。どれだけ話せるかが大切。先生だから話せる部分と先生だから話せない部分もあると思う。相談状況はどうか？

(事務局) 基本的には担任以外の教員が担当している。場合によるが、担任以外の別の先生だから話せるという場合もある。

(委員) スクールカウンセラーの活用状況は？

(事務局) 質問箱に投書があった際、内容を吟味して必要に応じてカウンセラーにつなぐこともある。

(委員) 相談システムとして非常に大事だと思う。

(委員) 授業についての肯定率が低いことについて、生徒たちにできるだけわかりやす

く、どう指導していくか、ユニバーサルスタイルの授業が求められる。他校では朝から夕方まで授業を見てチェックシートを渡したりしているが、校内で共通認識はあるか？

(事務局) 視覚支援を意識するなど気にかけている先生方は多くいるように感じる。

(委員) 個人任せではなく、共通の認識として取り組んでいることなどはないか？  
可能であれば学年や学科などで共通目標を年度当初に立てられると今後のために良いと思う。

(委員) 教職員の結果について。自立活動のウエイトが今後重くなってくる。同タイプの「むらの高等支援」では共通目標を持って、自立活動に取り組むように提案した。とりあえず取り組んでみるのが大切と感じる。

(事務局) 本校は自立活動の時間だけでなく全ての時間で優先課題を設定して活動を行っている。その事を、日々の授業を含めた学校生活すべての中で意識ができるよう共通認識を啓蒙している。

(委員) そのあたりの検証も必要かと思う。

## ②平成 29 年度「学校経営計画」評価について

(校長) 平成 29 年度学校経営計画の評価について報告

(委員) 非常に計画や評価についての項目が多いように感じる。もう少し簡素にしてやるべきことに集中できるようにするべきだと思う。民間に倣うような形だとは思いますが、計画や評価に力がかかりすぎている印象。

(委員) これは学校が行っていることを確認し発信・浸透させることが狙いで大切。

(委員) 交流・共同学習は肯定率が低いですが、他の学校との共同学習は地域的に難しい。企業や地域との連携に主を置くべきではないか。地域としては要望などあるか？

(委員) 特に要望はない。以前の鳥飼高校時代に比べトラブルも聞かなくなった。災害時には避難場所になるので、行事があった時に近隣住民に一度学校を見に行ってもらえるような形をめざしている。

(委員) 淀川河川事務所は障がい者教育や進路についての理解が高そうである。交流を通して様々な会社に理解を深めてもらうのがよいのではないか。

(事務局) 河川事務所については来校してもらい堆肥づくりをしたり、こちらから出向き花壇の整備をしたりして交流を行っている。今後も続けていきたい。

(委員) 学科ごとだけでなく、学年ごとなどでも外部との交流を行えたらよいのではないかと思う。

(委員) 教員の資質向上について、教員も企業に実習に行くことで資質向上が図れるので良いことだと思う。

(事務局) 今年度より年に 2 回研究授業週間を設けより多くの先生が見学できるようにした。お互いに授業を見学しアドバイスを出し合う機会を設けている。

(委員) 相互批判の機会を避けず、しっかりと改善点が見えるようにチェック項目を設定した振り返りシートを使用するとよい。

#### ③平成 30 年度「学校経営計画」(案) について

(校長) 平成 30 年度学校経営計画について報告。

#### ④進路状況について

(事務局) 3 期生の進路状況について報告。

(委員) 就労先の分野についてはどうか？

(事務局) 偏りはあまりなく、学年によって傾向がある。3 期生は幅広い。2 期生は軽作業がやや多かった。4 期生は現時点では動きの多い作業や事務が増えている。

(委員) 社会の動きの中で生徒がどのような分野に入り、働き続けるのかを見ていくために追指導が大切になる。しっかり取り組んでほしい。

#### ⑤学校運営協議会について

(校長) 学校運営協議会の設置について説明。

⑥まとめと終わりの挨拶

(委員) 協議会に参加できてとてもよかった。経営の方針はよくわからないが、子どもたちのことを考えてくださっていることは伝わった。

(委員) 自己診断の生徒回答では、ベストもワーストも数値がよくなっているのでがんばっておられると感じた。次年度もよりよくなるようお願いしたい。生徒が学校に行きたいと思える学校にしていきたい。

(委員) アンケートや経営計画について、このようなことに照らし合わせて活動をされていることに感心した。よりよい状態を作っていくために今後も助力したい。

(委員) 良い意味では細かく検討がされているというが、非常にたくさんの方があり、先生方が負担過多と感じたのでもう少し負担が減ればよいと思った。

(委員) 学校協議会から運営委員会に移行するという事で変わっていくこともあり大変かと思う。1年間ありがとうございました。